

第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会

第 3 回協議会（11 月 30 日開催）以降の動向について

I 第 8 回作業部会

日 時 12 月 12 日（月）午後 7 時 10 分から 9 時まで

会 場 武蔵野市役所西棟 8 階 8 1 3 会議室

参加者 早川、高橋（豊）、村井、藻谷、島、木村、興梠、千綿、平田、
山崎、島森、新垣、小澤会長

事務局等：クリーンセンター（木村参事ほか 3 名）、環境政策課
（山中課長ほか 2 名）

議事・主な意見等

1 エコプラザ（仮称）中間まとめについて

資料「第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会報告書 エコプラザ（仮称）事業中間まとめ（案）（塩澤委員作成）」を事務局から説明し、意見交換を行った。本日の作業部会で出された意見を整理し、12 月 20 日の第 4 回協議会で示すこととした。主な内容は以下のとおり。

- ・施設のあり方は言っておいたほうがいい（村井委員提出資料あり）。
- ・構想なので、もう少し穏やかにしたほうがいい。
- ・2 頁の施設・周辺整備基本構想の構成図はわかりにくい。
- ・事業がたくさん書かれているが、こんなにいっぱいできるのか。
- ・事業の柱は 3～4 本くらい、すでに実現しているものもあるので、いっぱいとは思わない。
- ・事業実施は、事業実施案でいいと思う。
- ・最初から全部の事業はできないので、優先順位を決めるとか、できるところから始めるということがいい。
- ・一般の人が読んだり、行政から出る報告書としては、鏡文的なものがない。
- ・実施事業については、鏡文や構造図をいれる。鏡文のところで協議会で出された意見を列挙する。

- ・完成された文章になっているので、冗長度のある文章にしないと、新しく参加された方が理解できない。
- ・現クリーンセンター事務所棟の設備の健全度がこうだから、こういう使い勝手をお願いする、というのがあれば、議論が進んでいく。議論を進めていく中で、例えば構造壁が取れないとか否定されると、話が前に進めなくなる恐れがある。
- ・基本方針の3つの柱に対して、こういう展開もあるというように補足的に並べて表にすると、踏み込んだイメージはなくなる。
- ・協議会でいままで蓄積したことややってきたことを、どのように見せるかということ。
- ・基本構想の方向性を示している中間報告、という言い方が入っているといい。
- ・中間報告に記載する事業と、協議会で視察してきたところがつながっているような表があるといい。
- ・どういう施設にしたいか、ここをきっかけにして話を伝えようとしていけばいい。
- ・気づきがまず大事で、発見、共感、行動の順序を押さえる。
- ・第一回の市民会議では、鏡文を含めて、A3判2枚くらいで示した方がいい。
- ・ごみの焼却量が30年後に現在の半分以下になっているという目標はあるべきものだと頭では分かっているが、実現できるのか。
- ・キーワードとなる文言を見出しにして、わかりやすく表現すれば、半分くらいの文章量にできるのではないか。
- ・生ごみの処理や産業廃棄物につながる家屋、建物といった問題を、議論を促すために設定しているという文章が入っていたほうが、他の人にはわかりやすい。
- ・市民会議では、協議会が示す基本方針から入ったほうが、さまざまな意見が出てくるのではないか。
- ・協議会は、この場所にこだわってエコプラザを設置するということの意味を語れないと、どこにあってもいいということになる。

2 その他

協議会から市民会議に参加する委員として、北町五丁目町会からは村井委員、緑町三丁目町会からは塩澤委員、緑町二丁目三番地域住民協議会からは木村委員を選出することを、委員間で了解した。